



歯科医・彌勒寺寛之の 視界良好!

第7回



はじめに

「先生、入れ歯ってこんなに不自由なものなの？ これじゃあ、食事のときは外して食べたほうがごはんがおいしいよ！」

先日、入れ歯を初めて入れた患者さんが、ポケットの中の丸めたハンカチから入れ歯を出して私に渡しました。

「わかります。そのお気持ち。」

歯科大学の学生のとくに入れ歯の授業で、「入れ歯患者さんの気持ちを理解するための実習」というものがありました。入れ歯と同じプラスチック樹脂で歯の部分がない薄い板を作り、「一日、自分の口の中へ入れて生活し入れ歯の人の気持ちを知ろう」という体験実習です。

入れ歯の樹脂で上あごが覆われているので、つけているだけでも気持ちが悪く吐き気もします。物を食べても味がしないし、しゃべりづらいし、気になるので、ずーっとベロで上あごを触っていたら舌も変になりました。

私は耐えられず、外しました。

「こんなもの一日中入れてられない」

学生の時の事を回想しながら、患者さんの入れ歯を受け取りました。

「先生、せっかく作ったんですが、入れ歯を入れ続けるのは無理です！」

「先生に一度インプラントのことを相談してみようかな？」

そうは言ってもインプラントについて、

- ・高い治療費をかけて失敗したらどうしよう
- ・本当に噛める歯をつくることができるのだろうか
- ・見た目はどうなんだろう
- ・手術は痛くないのかな

このようにも感じられているのではないのでしょうか。

私は安全で確実なインプラント治療を受けるためには、テレビや一般に市販されている本だけでは不十分だ、と毎日診療している中で感じていました。理由は、最近イン

プラントについてさまざまな情報が公開されていますが、歯のプロではないあなたが「どれを信じてよいのか判断できるはずがない」と思うからです。

実は、このコラムは本屋さんで売っている当たり前のことしか書いていないものは違います。なぜなら、あなたが本当に知らなければならないことは歯科業界の極秘情報なのでから。

このコラムを読み終わったとき、

- ◆入れ歯やブリッジなどの治療法がいかに弊害をもたらしているか
- ◆歯科医が作った入れ歯の寿命
- ◆インプラント治療がなぜ重要なのか
- ◆インプラント治療の上手な先生の条件とは
- ◆歯科医の先生にどういう質問をすれば良いのか
- ◆どういうインプラントを選ぶべきなのか

など、いま使っている入れ歯やブリッジに対する疑問が解決でき、しかも、インプラントを入れるために、絶対欠かすことができない判断基準を身につけることができるようになります。

私はこれまで、運悪く、失った歯を取り戻すために多額のお金を使い、失敗した人たちの悲鳴を実際に何度となく見聞きしてきました。失った歯をインプラントでとり戻すか、それとも不自由な入れ歯で一生我慢するのか。ぜひ、このコラムを読んであなたの悩みを解決してほしいのです。

- ・大好きだったものが食べられなくなった
- ・人前で大きな口を開けて笑うことができない
- ・口もとが気になって人と話するのがイヤ
- ・旅行には行きたいけど食事の時間が苦痛

など、歯を失うことで出来なくなった楽しみを、もう一度インプラントでとり戻すお手伝いをぜひ私にさせてください。

次回は、具体的に歯科治療の寿命について、お話ししたいと思います。



～著者プロフィール～

みろ歯科院長（2012年10月1日新規開院） 彌勒寺 寛之（みろくじ ひろゆき）

住 所 宇都宮市中央2-4-8 T E L 0120-814-364 (URL) <http://tda86.com>

所属学会

日本口腔インプラント学会 日本歯科審美学会 日本歯周病学会

日本小児歯科学会 日本ヘルスケア歯科研究会

※学会で得た知識を活かして、個人的に無料相談室を開設しました。

お口のことで疑問に思っていることなどがありましたら、お気軽にご相談下さい。当クリニックのホームページからメールで受け付けています。

（この無料相談室は予告なく終了することがありますので、ご了承下さい。）

